

# 漢字の読み方の学習における VA シャドーイング法の効果 —非漢字圏日本語学習者を対象として—

中山誠一 (実践女子大学)

キーワード: VA シャドーイング, 音読, シャドーイング

## 問題と目的

近年シャドーイングに加え、シャドーイングとビジュアル・シャドーイング (オンライン音読) を組み合わせたビジュアル・オーディトリリー・シャドーイング法 (以下 VA 法) という聴解指導法が、日本語教育において注目されつつある。中山 (2016) は漢字圏出身の日本語学習者を対象に、中山・古本 (2016) は、非漢字圏出身の日本語学習者を対象として、VA 法は他の方法 (ビジュアル・シャドーイング法およびシャドーイング法) と比較して、漢字の読み方の学習を促進するかについて予備的な検討を行った。本研究では、これら 2 つの研究の成果に基づいて、さらに非漢字圏出身者を対象に、VA 法の実証性について検討する。

## 方 法

### 1. 実験協力者

オランダの国立大学日本語学科在籍の学生 30 名が実験に参加した。実験協力者の日本語学習歴の平均は、12 ヶ月であった。30 名の協力者を 10 名ごとに、VA 群、ビジュアル・シャドーイング群 (以下 VS 群)、およびシャドーイング群 (以下 AS 群)、に割りあてた。

### 2. 実験計画

本実験は、3 × 1 の要因配置を用いた。第 1 の要因は、トレーニング方法の違い (VA 法・VS 法・シャドーイング法) であった。第 2 の要因は漢字読み取りテストの変化 (事前・事後テスト) であった。

### 3. 調査材料

中山 (2016) と中山・古本 (2016) を参考に以下の材料を作成した。

**言語材料:** 発表者が作成した日本語教材「お年玉こわい」(316 文字) を材料とした。この材料に基づき、以下の 4 つの教材を作成した (以下読解材料)。

**漢字の聞き取りテスト (教材 1):** 介入の効果を測定するため、読解材料を参考に 20 問 (ダミー問題 2 問を含む) からなる漢字の聞き取りテストを作成した。日本語の音声聞き、その音声が示す漢字を 4 つの選択肢から 1 つ選ぶ問題であった。このテストは出題順序を変えて、実験の前後に実施された。

**音声教材 (教材 2):** VA 法とシャドーイング法で使用する音声教材として、読解材料を音読した音声を録音した教材を作成した。

**VA シャドーイング用教材 (教材 3):** マイクロソフト社のパワーポイントを利用して作成した。読解材料全文を音声情報で 5 回、文字情報で 5 回示できるようにスライドを作成した。その結果、①表紙、②シャドーイングとビジュアル・シャドーイングの説明、③カウントダウン、④ターゲット文の提示、⑤シャドーイング音声提示、⑥ビジュアル・シャドーイング本文提示、⑦終了告知の合計 158 枚のスライドで教材 3 は構成された。

**VS シャドーイング用教材 (教材 4):** 教材 3 と同様にマイクロソフト社のパワーポイントを利用して作成した。読解材料全文を漢字を含む文字情報で 5 回、ひらがなのみで 5 回示できるようにスライドを作成した。その結果、①表紙、②ビジュアル・シャドーイングの説明、③カウントダウン、④ターゲット文の提示、⑤ビジュアル・シャドーイング本文提示 (漢字入り)、⑥ビジュアル・シャドーイング本文提示 (ひらがなのみ)、⑦終了告知の合計 158 枚のスライドで教材 4 は構成された。

### 4. 手順

実験は集団で行われた。実験協力者は、②漢字聞き取りテスト (事前テスト)、③指定された方法によるトレーニング、④漢字聞き取りテスト (事後テスト) の順に、実験に参加した。各実験にかかった時間は約 60 分であった。

## 結 果

Table 1. 漢字聞き取りテスト結果

|             | VA 群  |       | VS 群  |       | AS 群  |       |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|             | 事前    | 事後    | 事前    | 事後    | 事前    | 事後    |
| <i>N</i>    | 10    | 10    | 10    | 10    | 10    | 10    |
| <i>Mean</i> | 10.00 | 12.30 | 10.40 | 12.90 | 10.60 | 10.90 |
| <i>SD</i>   | 2.00  | 2.58  | 3.60  | 3.07  | 2.01  | 2.08  |

漢字書き取りテストの結果を Table 1. に示す。トレーニング方法の違いを要因 1 (被験者間)、漢字聞き取りテストの結果を要因 2 (被験者内) として、2 要因の分散分析を行った結果、交互作用が有意であり ( $F(2, 27) = 6.58, p < .01$ )、その後の分析の結果、事前テストの結果には、3 つの群の間に差がなかったこと ( $p > .05$ )、VA 群と VS 群についてのみ、事後テストの結果が、事前テストの結果と比較して有意に高いことがわかった ( $p < .01$ )。